

2011年3月10日

各位

株式会社春帆楼

**ふく料理の第一号店「春帆楼本店」
3月11日「婚儀神殿」・「ブライダルカウンター」新設**

※ふく料理第一号店として認められている割烹旅館「春帆楼本店」(下関市)は、2011年3月11日より、神前式を希望する方のブライダルニーズに対応する婚礼施設として、「婚儀神殿」、「ブライダルカウンター」を新設します。「婚儀神殿」は、赤間神宮の御祭神安徳天皇の御分霊をお奉りし、「ブライダルカウンター」は、きめ細やかな対応を可能にする機能的なレイアウトになっています。

また、今回の婚礼施設の新設に合わせ、エントランスから「婚儀神殿」、「ブライダルカウンター」に繋がる1階ロビーもリニューアルオープンします。リニューアルしたロビーには伊藤博文をはじめ山縣有朋、松林桂月の書が設置され、明治の面影が漂う空間に生まれ変わります。一步足を踏み入れると、圧倒的な気高さで存在感で本物志向の大人婚をイメージさせる空間が広がります。

婚礼施設の新設に伴い、5月21日に「ブライダルフェア」を行います。話題の「婚儀神殿」、「ブライダルカウンター」をご覧いただけると同時に、結婚式で実際にご提供する予定のお料理もご試食いただけます。

「春帆楼」は、今後も来館されたお客さまに感動を与えられるよう、新しい取り組みを展開してまいります。

※「ふく料理」は、1888年(明治21年)に、山口県出身の初代内閣総理大臣・伊藤博文が「ふく料理」を解禁してから、今年で123年となります。「春帆楼本店」は、「ふく料理」第一号店として認められた伝統を持つ割烹旅館です。下関では、河豚(ふぐ)を“福”に通じるということで「ふく」と呼びます。

<「春帆楼本店」に関するお問い合わせ先>

春帆楼本店 広報担当 手柴

TEL:083-223-7181

<上記以外に関するお問い合わせ先>

株式会社春帆楼 営業部 小林

TEL:03-3435-3437

Press Release

■「婚儀神殿」、「ブライダルカウンター」について

「婚儀神殿」は最大 50 名が一同に会することができるため、ご親族だけでなく、ご友人も挙式に参列いただけます。さらに「ブライダルカウンター」では、お客さまの多様なブライダルニーズにきめ細やかに対応します。



婚儀神殿(イメージ)



ブライダルカウンター(イメージ)

<<「婚儀神殿」施設概要>>

総席数：50席
 工期：2011年1月31日～3月10日
 開業：2011年3月11日予定
 設計・施工：株式会社ジーク

<「ブライダルフェア」開催について>

【開催日時】2011年5月21日(土)

【内容】赤間神宮のご案内、婚儀神殿のご案内、試食会(ブライダル料理)、
 演出アイテム・衣装・引出物・他ブライダルアイテムの展示

【お申込方法】お電話 もしくは ホームページより事前にお申し込みください。

TEL:083-223-7181

ホームページ:<http://www.shunpanro.com/bridal/>

【備考】ブライダルフェア開催日以外にも随時、下見・ご相談を受け付けております。

■ロビーについて



明治の面影がただようロビー(イメージ)



ロビー(イメージ)

Press Release

■春帆楼の概要

【サービス】 宿泊・宴会・ブライダル・ふくフルコースを始め海鮮会席などのお食事・店舗展開・
ふく料理セットの宅配・PB 商品の展開

【経営】 株式会社春帆楼（オリックスグループ）

【URL】 <http://www.shunpanro.com/index.html>

【店舗】 「春帆楼本店」

住 所： 山口県下関市阿弥陀寺町4-2

連絡先： TEL 083-223-7181 / FAX 083-232-7980

施設： 宴会場 2 室、客室数 10 室(ご宿泊 50 名様)、婚儀神殿、
ブライダルカウンター、ラウンジ、売店

交通アクセス： JR 下関駅より車で 7 分

新幹線 新下関駅より車で 15 分

中国道 下関 I.C.より車で 7 分

北九州空港より車で 40 分

山口宇部空港より車で 50 分

Press Release

<ご参考>

■春帆楼の歴史

【伊藤博文との深い縁】

豊前中津奥平藩の御殿医であった藤野玄洋が、現在春帆楼がある下関市阿弥陀町の地に1877年(明治10年)に開業した月波楼医院が春帆楼の前身です。その後、1881年(明治14年)～1882年(明治15年)頃に藤野玄洋の妻ミチが、医院を接客用に改装し、中津から奉公人等を集め、料理店兼客館の営業を開始しました。「春帆楼」という屋号は、春畝という雅号を持つ伊藤博文が、春うらかな海の帆船を心に描いて命名しました。



初代内閣総理大臣
伊藤博文公

【ふく料理公許第一号店】

日本では、縄文時代からふくを食べる習慣がありました。しかし、安土桃山時代になり、豊臣秀吉が朝鮮出兵した文禄・慶長の役(1592～1598年)の際、攻略の要であった下関で武士達がふくを食べて相次いで死亡したことから、豊臣秀吉が「河豚食用禁止の令」を發布、ふく食は禁止されてしまいました。

長らく禁止されていたふく食を復活させたのは、初代総理大臣・伊藤博文でした。今から123年前の1888年(明治21年)、伊藤博文が、春帆楼に立ち寄った際、海が時化(シケ)続きで魚がまるで捕れず、困り果てた女将は、手討ち覚悟で止むを得ずふくを御前に出しました。伊藤博文はこの旨さに驚き「一身よく百味の相をととのえ」と絶賛されました。そして翌年、「調理さえ心がければ」との条件つきで禁令を解き、それ以来、春帆楼は「ふく公許一号の店」として、広く知られるようになりました。



「春帆楼本店」外観

【日清講和条約(下関条約)締結の地】

1895年(明治28年)3月、日清講和条約の会場選びは、長崎、広島など幾つかの候補地があげられていましたが、伊藤博文が「下関の春帆楼で」と発表し決定。世界の外交史に名を連ねる日清講和条約(下関条約)は、当時の春帆楼2階の大広間で開催されました。こうして春帆楼は、世界史に名を残し、明治・大正期を通じて皇族や多くの政財官界要人、内外の顯官貴賓が足を運び、鉄道唱歌(九州山陽30番)の歌詞(「♪世界にその名いと高き馬関条約結びたる春帆楼の跡とひて昔しのぶもおもしろや」)や、司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」の文中でも紹介されるなど、下関の迎賓館として、各界著名人に愛されています。



日清講和条約調印式

Press Release

<百貨店でのレストラン展開>

「春帆楼」近鉄阿倍野店

住 所：大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43 近鉄阿倍野店 10 階
連 絡 先：TEL 06-6625-2378 / FAX 06-6623-1692
座敷・席数：大小座敷(3 室)、テーブル席(32 席)

「春帆楼」松坂屋名古屋店

住 所：愛知県名古屋市中区栄3-16-1 松坂屋名古屋店南館10階
連 絡 先：TEL 052-264-3828 / FAX 052-262-6330
座敷・席数：大小座敷(5 室)、テーブル席(40 席)

「春帆楼」難波店

住 所：大阪府大阪市中央区難波5-1-18
高島屋大阪店内なんばダイニングメゾン9階
連 絡 先：TEL&FAX 06-6633-3629
座敷・席数：テーブル席(40 席)

「春帆楼茶寮」玉川高島屋 S・C 店

住 所：東京都世田谷区玉川 3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館 9 階
連 絡 先：TEL&FAX 03-3709-7200
席 数：テーブル席(34 席)

「春帆楼茶寮」下関大丸店

住 所：山口県下関市竹崎町 4-4-10 下関大丸 7 階
連 絡 先：TEL&FAX 083-235-8029
席 数：テーブル席(44 席)

<ホテルでのレストラン展開>

「春帆楼」小倉店

住 所：北九州市小倉北区浅野2-14-65 ブルーウェーブイン小倉内
連 絡 先：TEL 093-531-4000 / FAX 093-531-5120
座敷・席数：大小座敷(2室)、テーブル席(32 席)、宴会場(4室)

「春帆楼」広島店

住 所：広島県広島市中区銀山町 10-17 ブルーウェーブイン広島内
連 絡 先：TEL 082-246-4999 / FAX 082-245-2300
座敷・席数：大小座敷(3 室)、テーブル席(44 席)

Press Release



「風月茶寮」浅草店

住 所： 東京都台東区浅草 2-33-7 ブルーウェーブイン浅草内

連 絡 先： TEL 03-5828-4321 / FAX 03-5828-6421

座敷・席数： テーブル席(50 席)、宴会場(4 室)

<デパ地下食品街>

「春帆楼」高島屋東京店

ふく料理のテイクアウト専門店。イートインがある人気のデパ地下グルメ。

住 所： 東京都中央区日本橋 2-4-1 高島屋東京店 B1

連 絡 先： TEL&FAX 03-3272-1029

席 数： カウンター席(4 席)